



URL <https://kanagawanet.org/>

参議院選挙 全国比例



若林ともこ

若林ともことキックオフ「生活は政治だ!」 日時:6月8日(土)14:00~15:30 会場:TKPガーデンシティ PREMIUMみなとみらい「ホールC」 <https://wakabayashitomoko.jp/>

◆プロフィール 1961広島市生まれ 1982比治山女子短期大学卒・ヤマハ入社 2003~11横浜市議員 2005~17神奈川ネット共同代表 2011~15神奈川県議会議員 2016NPO法人ピッピ親子サポートネット副理事長・NPO法人全国小規模保育協議会監事



国政フォーラム 2019

市民社会を強くする

4/26

国政フォーラムを開催し、新藤宗幸さんの基調講演の後、パネラーに若林ともこさん、大河原まさこさん、藤田ほのみさんを迎え、市民社会を強くする政治の実現に向けて、国政の場に生活者の声を届ける意義を共有しました。



藤田ほのみさん (生活クラブ生活協同組合 神奈川理事長)

市民から政策を提案 藤田 生活クラブは身近な生活課題を解決するために、市民政策提案活動を行い、昨年度は県知事宛に種子法、核兵器廃絶などを訴えました。この活動を進める中で、若いお母さんたちが政治に関心を持ち、活動に参加する意味があるという組合員が出てきたのは成果です。

遺伝子組換えやゲノム編集、食品添加物など食の安全と表示の問題では、消費者が選べる表示制度にすべきです。エネルギー問題については、風車を建て、セクターの屋上に太陽光パネルを設置する等、組合員が安全な電気を選べるようにしてききました。地域から、足元から生活を良くする活動に取り組みつつ、国の制度を



若林ともこさん (立憲民主党参議院 比例第18総支部長)

変えていかななくてはと感じています。若林 種子を守るという意味では、栗や伝統野菜も盛り込んで奨励品を取り入れる度のある長野県に学ぶこともあると考えます。自治体から意見書をするという動きで、ローカルとナショナルをつなげ、有機的な運動を展開していきます。



「市民が政治に参加する意味 ~市民の政治を、いかに実現するか~」

青木マキ(ネット青葉)

基調講演は、千葉大学名誉教授の新藤宗幸さんからお話しいただきました。



今回の統一地方選挙の投票率は、18歳参政権が始まった最初の地方選挙として期待されましたが、低迷を続け、平均で45.57%でした。若い人への主権者教育の教材は模擬選挙で、「政治は、国の意思を決めることです」と教えるそうです。

政治参加は、本来、「権力からの自由」と「権力への参加」が共にあるべきで、権力からの自由がないのに、権力へ参加するのは無意味だろうと新藤先生は仰います。まさに、今の政治への不信と無関心の根源を表しているようにも思います。私たちは、「生活は政治だ」と考えますが、だからこそ、市民政治は対話から始まります。

また、先生からは「地方議員は、問題の発見に努めるべきであり、自治体のあり方をもう一度見直す時だ」と、市民政治の実現に向けた数々の示唆と投げかけをいただきました。

とし、幼児教育の無償化が進められていますが、本来の就学前の子ども達へのよい教育とよいケアという部分が十分に議論されていません。女性が働くための条件整備という道筋になっていきますが、本来の子どもが育つ環境、そこで働く人たちの労働環境を含めた議論が必要です。



移動の自由を確保する 河村 移動サービスは、2006年に道路運送法が改定され福祉有償運送が法的に整備されましたが、事業所は増えていきました。手続き等が煩雑となり、運転や自家用車を使うリスク、一般タクシー料金の半分に抑えられた料金設定等が生産性の低い事業と

移動の自由を確保する

河村 移動サービスは、2006年に道路運送法が改定され福祉有償運送が法的に整備されましたが、事業所は増えていきました。手続き等が煩雑となり、運転や自家用車を使うリスク、一般タクシー料金の半分に抑えられた料金設定等が生産性の低い事業と



河村尚子さん (認定NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク副理事長)

若林 セダン特区の導入から各自治体でアクションをしてきましたが、事業を進めていく上での困難の声も聞いています。省庁や自治体内の部局を超えて議論する横断的視点を持つて取組んでいきます。

子育てを社会で支える

吉野 待機児童対策として認可保育園を作り続けて来た結果、年度当初には待機児童ゼロ



吉野歌代子さん (NPO法人のほらネットワーク施設長)

となつてきました。一時保育事業は保育園に入所が出来ることでキャンセルが続いていきます。一時保育は家庭を支える視点でのニーズは高まっていますが、補助金の額に差があるため事業への参入、継続は難しい現状です。

女性議員を増やす



大河原まさこさん (衆議院議員・立憲民主党)

大河原 政治の世界は女性が少なく日本は193カ国中65位です。全体の3割が女性にならないと議会は変わらないと言われています。候補者の数を均等と言ってきましたが今回の統一地方選挙では、政党は義務ではなく努力義務となりました。男女同数均等になるよう法律化した議会も世界では増えてきています。政治テーマも女性が増えることで変えていけると考えます。